

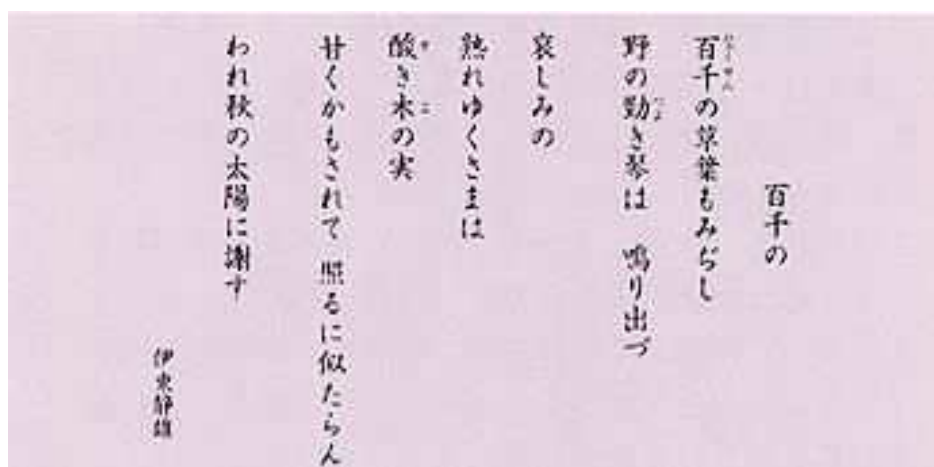
14 伊東 静雄文学碑

■場所

阿倍野区松虫通二丁目
松虫ポケットパーク内

■交通

阪堺上町線:松虫



伊東 静雄(1906年～1953年)

伊東静雄は、明治39年(1906年)長崎県北高来郡諫早町(現長崎県諫早市)に生まれ、昭和28年(1953年)3月12日死去した。

諫早尋常小学校(現諫早小学校)、大村中学校(現大村高等学校)、佐賀高等学校(現佐賀大学)を経て京都帝国大学文学部国文科にすすんだ。

大学在学中の昭和3年、懸賞募集児童映画脚本の童話「美しき朋輩達」が一等当選となり映画化された。

昭和4年大学を卒業後、住吉中学校(現住吉高等学校)に就職し、生涯教職を離れなかった。昭和7年、同人誌『呂』を創刊したが、やがて『呂』を離れて、同人誌『コギト』に専念すること

となった。

昭和 10 年、最初の詩集「わがひとに与ふる哀歌」を刊行し、萩原朔太郎に激賞され、一躍詩人としての名を高めた。

その後、昭和 15 年、第二詩集「夏花」を、また、同 18 年、第三詩集「春のいそぎ」を刊行した。

昭和 22 年、第四詩集「反響」を刊行。次第に散文的描写的に変化しつつ、一段と内面的静けさと高みを獲得していった。

この他、昭和 28 年、遺志により、死後まもなく刊行された「反響以後」がある。三好達治は、その詩業をふりかえり「清新な、繊細な、また明確な彼の手法で一步一步刻印をうつよう跡づけてきた」と讃えた。

「百千の」の詩は、昭和 18 年に刊行された第三詩集「春のいそぎ」におさめられており、簡潔でつよく、また作風に円熟したものを感じさせる詩と評価されている。また、この詩は、心から傾倒した詩友、蓮田善明に贈った自筆の色紙にも書かれている。

墓所は、長崎県諫早市船越名の広福寺。